

地区合併は ロータリーの未来を強固なものに

ロータリアン誌6月号より

大きいことが良いとは限りませんが地区の場合、その規模は大切です。ガバナーやガバナー補佐、そのほかの地区役員を選ぶとき、資格のあるロータリアンがたくさんいる大きな地区は、より優秀な指導者を得ることができます。大きな地区は人材、資力を有していて、ロータリーに対する認識を向上させるような、大きな影響をもたらす奉仕プロジェクトが実行できます。

会員・クラブ数が多ければ、地域社会で、または国際的な人道的プロジェクトを支援するための資金調達力も増強されます。結論として、大きな地区は規模の大きな、そしてダイナミックな地区大会を開催でき、またクラブや地区の指導者たちに、より優れた教育を提供することができます。

国際ロータリーの大きな地区をいくつか見るとその利点がよく分かります。

◇第2650地区(福井・滋賀・京都・奈良)は、91クラブで会員数は6,325人です。会員数は世界最大です。ロータリー財団への寄付総額も世界の全地区中で第1位ということも偶然ではありません。

◇第2070地区(イタリアの一部とサンマリノ)82クラブで会員が5,311人です。地区の大きさが4位だけでなく、1999年には卓越した会員増強を成し遂げています。

◇第6900地区(米国ジョージア州)地区規模は世界11位で、会員数は4,750人です。地区内にいわゆる優れたリーダーが多いため、地区の95~100%にあたる67クラブから約1,200人のロータリアンが出席する、素晴らしい地区大会を開催することができます。

◇第2450地区(バーレーン、キプロス、エジプト、ヨルダン、レバノン、スーダン)100クラブで3,934人の会員がいます。ロータリアンの比較的少ない地域ですが、優れた識字・保健プロジェクトを支援し、先駆的なGSE(研究グループ交換)やその他の活動のスポンサーをしてきました。

しかしながら、大きな地区の第1の利点は、——これが地区の最大の役目とも言える効果的なクラブを築く援助ができることです。効果的なクラブは、会員基盤を保持・増強し、国内外の地域社会のニーズにこたえるプロジェクトを実施し、プログラムへの参加や財政的な貢献でR財団を支え、そしてクラブレベルを超えたロータリーに仕えることのできる指導者を養成すると、R I理事会は効果的なクラブを定義しています。クラブがこうした目的を達成するのを援助するために、人材や資力をそろえることができるのが大きな地区なのです。

地区規模の基準

大きな地区の方が明らかに有利で、小さな地区より効率的という確証を得た上で、R I理事会はクラブ数75、会員数が2,700人という新しい地区基準を定めました。新しくできる地区は、この新基準に合わなければなりません。この基準に達していない地区は合併するように奨励しています。6月現在、528地区(今年度から2地区が増えている)の内、わずか29地区しかこの最小目標を満たしていません。R Iは、小地区の合併を推進するために、いくつかの報奨を提供しています。例えばその一つとして、合併の行われた年度に、その合併地区で開かれる地

区大会にR I会長または会長エレクトが可能な限り、出席します。

またもう一つのインセンティブは、合併提案がクラブで承諾されそして理事会で認可された後、次のR I国際大会に参加する合併地区のガバナーの費用を支給することになっています。大会では、ガバナーは自分の経験を他のロータリアンたちに話す機会を与えられます。

1912年にロータリークラブ国際連合会(R Iの前身)が8つの管理区内にクラブをグループ化して以来、小さい地区を次々と創設する傾向がありましたが、1999年11月の会合で採用された新しい方針によって、R I理事会はこの傾向を阻止しようと試みています。この10年間を見ても、会員数が6%しか増えていないのに対して、地区数は11%増加し、R Iにとって管理費が大幅に上昇する結果となっています。

近年、地区の急増をもたらした一つの要因としては、R I、R財団のプログラムが増え、ますます複雑になってきたことで、ガバナーの仕事も多様化してきました。大きな地区が管理しにくいと思った指導者たちは地区が拡張することに抵抗し、小さい地区を増やすこととなりました。その上、会員増強および拡大を推進するだろうとの前提で大きな地区が2つに分かれることがありましたが、利点はほとんど見えてきませんでした。

地区リーダーシップ・プランの支援

地区の管理に関する問題を解決するために、R Iは1996年に地区リーダーシップ・プランを採用しました。プランはクラブへのサポートを準備するガバナー補佐という役割を設けました。それによって、将来ガバナーになるための経験を積むことにもなります。プランを採用したほとんどの地区は、クラブと地区の指導者たちとのコミュニケーションがよくなり、クラブ・地区活動への会員参加が向上したと報告しています。7月1日までにロータリー地区の75%がプランを採用する予定です。

合併を実施した地区は大きくなりますが、地理的に広い地域でも効率的な管理ができると、

地区リーダーシップ・プランから得た実験は示しています。アフリカのホーンから南のウガンダまで広がる第9200地区と、米国アラスカ州とカナダのユーコン準州からロシアのウラル山脈まで延びる第5010地区は広大な地区でありながら、プランを利用することで、より効率的で統一された地区となり、奉仕の範囲を拡張し、ロータリーへのクラブ参加を向上させた実例なのです。

国際間での地区創設の最近の例では、地区に属していなかった中央・東ヨーロッパのロータリークラブが既存のヨーロッパの地区に編入しました(本誌6月号横組みP. 38~41参照)。2カ国以上にまたがるこのような地区では、言語・文化の障壁を乗り越え、多様性のある地域で統一を推進することが、ガバナー補佐に期待されています。バルト海から黒海までロータリーの指導者たちは、地区リーダーシップ・プランの下で改正された彼らの地区が新しい成長と活気を体験するだろうと自信を持って発言しています。

合併の利点がほかの地区に理解してもらえたらと、R I地区委員会のテッド・ギフォード委員長は望んでいます。「大きな地区は、クラブにより大きな資力を、そして個々のロータリアンにより大きな機会をもたらす、R Iの管理・運営そして財政面を強固なものにしています」と、語っています。

(R I指定記事)